

れ、葦は1・2割ほど。
 キレンゲシヨウマは、ユキノシタ科の多年草。環境省のレッドデータブックで、絶滅の危険が増大している「絶滅危惧Ⅱ類」に分類されている。道内では比較的珍しい花で、公園の森田義寿管理事務所長は「一人気の花で、スケッチや写真を撮る人も多い」と話す。見ごろは1週間ほど続く見込み。
 (五十嵐俊介)

食品ロス削減を目指し、札幌市が希望する市内飲食店に配布する「ドギーバッグ」



残った料理を持ち帰り

市、食品ロス削減へ容器配布

札幌市は店で食べきれない料理を持ち帰るための容器「ドギーバッグ」を市内飲食店に配布している。利用客や店舗関係者の、食品ロス削減への意識向上を図る狙いだ。

札幌市の事業系ごみは年間約20万トあり、うち生ご

みは約8万トと推計される。市はごみの削減を目指し、2020年度に「食べ残し料理の持ち帰り・おいしい食べきり運動」を開始。昨年度も希望する市内飲食店に試行的にドギーバッグを配布した。

ドギーバッグは道産エゾマツ材を使ったリサイクル紙製で横約16センチ、奥行き約10センチ。内側はプラスチック加工、アルコール除菌が施されている。昨年度は35店に計645個配布し、23店で計221個の利用があった。

本年度は先着40店に1店50個配布。市が作成したドギーバッグのステッカーを貼ってもらい、客に利用を呼び掛ける。食中毒防止などのため、利用期間は10月から来年1月末まで。市は

「その日のうちに速やかに食べる」「持ち帰りは帰宅後、再加熱が可能なもの」などの注意点をまとめたガイドラインを作成し、客の自己責任で行うよう理解を求めている。

本年度は「食べきり」の呼びかけを印刷したマスクケースも先着175店に配布する。

いずれも無料だが、市のアンケートへの協力が必要。市は「新型コロナウイルス感染症拡大で飲食店の利用は減っていると思うが、食品ロスへの関心をしっかりと持ってほしい」と話す。申し込みは17日までに市ホームページ(https://www.city.sapporo.jp/seiso/foodloss/foodloss.html)から申請書と誓約書をダウンロードして必要事項を記入し、ファクス011-218-5105かメールenquete_jihai@city.sapporo.jpへ。

(今関茉莉)